

研究代表者 所属・職：看護学部・教授

氏 名：水谷 聖子

研究課題名：半田市における子どもの貧困対策と居場所づくり

～地域におけるさまざまな子どもの居場所のあり方～

### 研究の目的

生活困窮者自立支援法により学習支援や居場所づくりなどできつつあるが、「関係性の貧困」には手つかずの状況と思われる。半田市の第6次半田市総合計画の「子ども・子育て支援新制度」は18歳未満の子どもを対象としているが、乳幼児及びその保護者への支援にとどまり、6～18歳への支援は学校教育に比重が大きく、保護が必要とされる子どもへの予防的な仕組みはほとんどない。貧困の問題は、文化的な背景、差別への懸念から表出されにくいという特徴があることから、半田市乙川中学校区を対象に、子どもを取り巻く状況について調査し、半田市および地域住民に還元することで見えづらい「こどもの貧困」の実態を共有し基礎資料とする。半田市乙川中学校区の既存の支援システムとその機能について既存資料や担当者へのインタビューを通して課題を明らかにする。

### プロジェクト目標の達成状況・成果内容

研究対象地域は、半田市乙川中学校区とする。研究内容は、①半田市乙川中学校区における学童期・青年期にある子どもの課題認識と既存組織の活動内容などのヒヤリング調査、②居場所支援「おっかわ寺子屋ちよっこり」の活動支援と訪問調査、③乙川中学校区の子供たちへのインタビュー、④先進地域、特徴的な活動団体への視察とヒヤリングとした。分析方法は、①コミュニティーアズパートナーモデルによる地域の健康課題やストレスの分析、②プリシート・プロシートモデル活用による課題、計画、実践・評価とした。

その結果、居場所支援「おっかわ寺子屋ちよっこり」は月に1回開催し、当初3～5名程度であったが、3月には20名を超える子どもたちの参加があった。子どもたちからの相談を受け、日系ブラジル

人の母親への支援も開始した。また、子どもたちに関わる担当者の多くは地域、世代、同世代間の関係性の希薄さに合わせて、その無関心が子どもの生活状況に反映していると感じている。子どもへの関りを通して、生活における課題を把握し課題に感じながらも、情報の共有や発信および支援に至らないことにジレンマを感じていた。

半田市の子どもたちが“もっと”幸せになる ～子どもの貧困に地域はどう向き合うか～をテーマに、平成29年3月10日（金）第1部 13:30～15:00 第2部 19:30～21:00を地元の乙川公民館 第1会議室にて開催した。講演①では、水谷から『地域の「つながり」が健康に及ぼす影響』について行い、事例報告として新美から『乙川地区における子どもの居場所づくりの実際と先進事例報告』を開催した。40名の参加があった。

### 優れた成果があがった点

- ・半田市乙川地域における子供たちを取りまく漠然とした状況の見える化・情報の共有化ができた。
- ・半田市乙川地域における新たな子どもの居場所・学習支援・子ども食堂の立ち上げ。

### 研究期間終了後の今後の展望

- a. 学内研究助成を申請する。5年計画の1年目
- b. 申請内容

① 「おっかわ寺小屋ちよっこり」の活動に対してのアクションリサーチ

- ・利用する子どもたちの経時的変化の観察
- ・健康教育を行い、健康に対する認識、行動変容を促す支援とその結果の観察

② 既存資料のデータ収集と分析

対象エリア：愛知県、半田市、乙川地区と

他地域

分析方法

- ①コミュニティーアズパートナーモデルによる  
地域の健康課題やストレングスの分析
- ②プリシート・プロシートモデル活用による課

題、計画、実践・評価

- ③ 関係者へのヒヤリング調査・フィールドワーク・参与観察を定点で行う。
- ④ 年に1回の活動報告と情報交換会開催